

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 20 章 17～28 節>

①主イエスの受難と復活の予告が意味すること。

イエス様が三度目の受難予告をされました (16:21, 17:22)。これが示していることは、イエス様の十字架の死は予期せぬ不幸な出来事ではなかったということです。自ら予見されたその道を避けず、進み続けられたのですから。では、その死はどんな意味を持っていたのでしょうか？ 弟子たちはまだ分かりませんでした。むしろこのすぐ後に、イエス様の死が持つ意味とは全く正反対の姿を示す出来事が起こったのです。

②「人の上に立ちたい」と思う思いの強さ。それは正しいのか？

ゼベダイの息子たちとはヤコブとヨハネです。ペトロと並んで、イエス様が重んじられていた弟子たちです。その二人が母親とやって来て、「あなたが支配したら、高い地位に就けてくれ」と願ったのです。他の弟子たちも同じ姿を示しました。「人の上に立ちたい」、私たちの中にあるこの思いの強さを考えさせられます。しかし、それは悪い思いなのでしょうか？ 向上心や頑張りを生むと考える人もいます。それに対してイエス様は全く違う考え方を示されました。

③「仕えられるためでなく、仕えるために来た」と言われた主イエス。

イエス様は、「偉くなりたいなら、皆に仕える僕となりなさい。私が仕えられるためではなく、仕えるために来たように。全ての人の救いのために自分の命を捧げるために来たように」、と教えられたのです。ここで、単に、「人に仕えることが大事」ということだけが大事なわけではありません。仕える相手を間違えると、とんでもないことも起きるからです。世界の歴史はそのことも教えています。ここでは、イエス様がご自分の命を犠牲にして私たちを救って下さったことに目を向けなければなりません。向上心や頑張りには他の理由からも持てます。むしろ、「人の上に立ちたい」という思いが人を誤った姿に陥らせ、どれだけ罪を犯させているかを考える必要があります。イエス様の十字架の死は、その罪を私たちに気づかせ、神様に向き直らせ、人の上に立つより人に仕えて生きることを良しとする新しい生き方に招いて下さるものだったのです！ 人の評価を気にするのではなく、この恵み深い主イエスにまず仕え、そして人に仕えて生きること、ここに真の平安があります！